



キャンパス・コラム

否定表現

最近の書き物はストレートな表現が多用されるようになってきました。私は理系人間ですから、テクニカルな書き物とはことん簡明を尽くしますが、しかし世の中にある書き物までやたらに「簡明に」なりつつあるのは、それはそれでまた問題ありと思うのです。

何を言いたいかと申しますと、日本には遠慮がち(?)に物を言う「否定表現」があったのですが、最近では、消極的印象を与えるとして使用を避ける傾向があります。ところが、私の専門である「論理」の分野では、また次のような話もあります。いま世の中に、常に真実を言う「正直者」と、常に全否定を言う「嘘つき」とがいたとして、そのいずれであるかが不詳なX氏が自分をアピールするため「私は正直者の金持ちです」と言ったとしたら、本当のところX氏は正直者の金持ちなのでしょう。

可能性として、もしX氏が正直者なら真実を言いますので、彼の言葉からX氏は金持ちであ

ることがわかります。しかし、もしX氏が嘘つきなら否定を言いますので、彼は正直者の金持ちではないこととなります。ゆえに、X氏が本当は「正直者の金持ち」か「嘘つきの金持ちor貧乏人」かは判定しようがありません。

別の表現法として、X氏が「私は正直者の貧乏人ではありません」と言ったとします。もしX氏が正直者なら真実を言いますので、彼の言葉からX氏は正直者の金持ちであることがわかります。また、もしX氏が嘘つきなら否定を言いますので、正直者の貧乏人であると主張していることになり、アピールに矛盾が生じます。ゆえに、間違いなくX氏は「正直者の金持ち」であることがわかります。

そう言えば、初対面の人から「俺は正直だ。信じてよ」と言われても、なかなか信じられませんよね。でも、普段いい加減な人から真顔で「私はそれこそ根っからの嘘つきというわけではないんです」などと言われると、信じてもいいような気になるから不思議です。

否定表現は、時として自己を強力にアピールします。そのようなことが「遠慮がちな日本文化」に潜む独特の鋭さでもあると思うのです。

広報委員 鈴木 寿 (理工学部教授)